

自己評価および外部評価結果結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、開設時に当時の職員で作ったが2年後に見直しを現在に至る。地域に密着したサービスを提供するという理念を持ち、学習会において確認し実践につなげている。	理念は、地域密着型サービスとしてのグループホームの特性を踏まえて職員全員で策定されたが、2年過ぎた時点で、理念に基づいた実践を見直し、言葉の表現についても注意を払って策定された。	理念を、職員皆の共通認識にする為に今後も、全職員で考える姿勢は継続する事を期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達とは、日頃から密接な関係を持ち、利用者と地域の方々とは日常的に交流を行っている。	地域の方々からの日々の生活へ協力がある。近隣の住民との交流は自然で気負いを感じない。時として家族のように接する事もある。	良好な地域との交流をこのまま継続する事を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修会や実践から得た知識をもとに、認知症を抱える家族や、地域の人達からの様々な相談に応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年6回開催しており広く意見をいただき、サービスの向上に活かしている。屋外に非常を知らせるベルの設置を提案され、実行した。	運営推進会議で話し合われた事が、日常生活に活かされている。屋外に設置された赤街頭はこの会議の中から地域の住民から提案され設置された。	会議のメンバーはほぼ固定されている様ですが、欠席者などへの連絡などの申し送りを徹底出来る様更に取組む事に期待します。警察関係者の会議への出席を今後検討頂く事も必要と感じます
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	飯田市介護高齢課、地域包括センターとは密接な関係を持ち、常に指導をいただいている。	飯田市介護高齢課へは遠距離の為、細かな内容と成ると伝えるのに苦労されているが、地域包括支援センターとの連携を取りながら対応されています。	飯田市介護高齢課へは遠距離の為、細かな内容と成ると伝えるのに苦労されているかと思いますが、更に支所、地域包括支援センターとの連携を密にされ取組む事に期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという信念は特に強く持ち、施錠はもちろん言葉などあらゆる拘束をしない取り組みを実施している。	身体拘束のみならず、言葉での拘束も無い様心がけ実践されている。	身体拘束をしないという信念を強く意識することは重要と感じますが、時には違う目線で考える事も大切かと思えます。柔軟な姿勢を持ちつつ取り組む事に期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会において虐待防止について学び、職員が気付きにくい言葉の虐待等防止に取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会において虐待防止について学び、職員が気付きにくい言葉の虐待等防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	グループホームわたの家 次のステップに向けて期待したい内容
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護サービスを実施するにおいて、権利擁護は重要事項として取り組んでおり、その人らしい生活を送っていただけるよう支援している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は結成していないが、定期的に行事を開催し、家族の方に参加していただく機会をつくっている。その折りに家族の意見や要望を聞くようにしている。	4月花見・8月花火大会など行事は盛んに行われ、家族の出席も高い。その折にはホームへの意見等を積極的に聞き、入居者の様子等伝えている。	「家族会」の提案をしているが、思うように進んでいない。根気強く促進されて行く事を望みます。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において、運営等に関して意見を話し合ってもらいそれを事業に反映している。	管理者に直接話が出来る環境にあり、管理者のホームの様子など見聞きしながら、職員の意見を反映するように心掛けている。職員との意思の疎通は「あうん」呼吸で有る事を訪問時感じた。	現在の関係を維持される事を望みます。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善事業により、昨年来給与改定に取り組んでおり、給与水準の引き上げを実施している。就業環境は事業運営に職員の意見を取り入れるなどやりがいのある職場作りにも努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修には、職員が学びたいテーマを決め、それにあった研修会等に積極的に参加をしている。また、日常の業務遂行の過程においてより良い介護技術を学んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山間僻地のため、他の事業所との交流は簡単ではないが、1施設との交流は開設以来続けており、本年から1施設加わり、3施設交流が計画されている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを大切にするため、真摯な気持ちで向き合い、信頼関係を築くことに心掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは、困っていること不安に感じていること、どのような介護を望んでいるかを話し合い、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどのような思いでいるのか、どのような介護を望んでいるかを明確にし、目標を定めてケアプランを作成し、サービス提供を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	グループホームわたの家 次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者も職員も一つ屋根の下で暮らす家族という気持ちで生活している。		
19		本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族、それに職員が互いに連絡を密にし、共に支えていくという関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって大事な場所、生家訪問や先祖の墓参りなどを行い、なじみの人達と場所との関係を深める支援を行っている。	彼岸の墓参り、友人への訪問、電話でのやり取り等、馴染みの関係、自分の大切に思っている場所等、入居者の思いを汲み取り支援出来る様にしている。	入居者の思いを様々な角度から見ながら思いを汲み取っていく事を今後も継続する事を期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大人数でできるゲームをしたり、散歩や外気浴など、利用者同士が関わり合い支え合うような環境作りに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在入所している施設を訪問してお話ししたり、亡くなられた利用者の墓参りに行き、残された家族との関わりを断ち切らないでいる。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人から毎日の生活の希望を聞いたり、何を望んでいるかをくみ取り、利用者一人ひとりの思いを大切に支えを心掛けている。	馴染みの関係への維持・思いの有る場所への訪問等、入居者一人ひとりの声を聞き取り支援することを心掛けている。	今後も入居者の思いを汲み取り支援される事を望みます。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を知り、暮らしてきた環境を把握し、サービス提供の基礎にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、ひとりひとりの過ごし方や心身状態、その人が有する力を見つけ出す努力をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が快適で自分らしく生きるため、関係者の協議の上で、本人・家族の意向を尊重した介護計画を作成している。	担当者・家族等と一緒に計画を作成されている。月に1回実施されているが、特に気になること等有った時は分析シートなど活用され生きた介護計画を作成するよう努力されている。	入居者・家族・職員と一体になり介護計画・モニタリング等活用し、其々の思いを汲み取る為に努力を続ける事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	グループホームわたの家 次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いくつかの記録の中に個人別記録簿があり、日々の様子やケアの実践、気づきなどが記録されており、職員間で共有し介護に活かし、さらに介護計画の見直しにも活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに対応して柔軟な支援やサービスの多機能化に努める。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の特性から、環境と周辺住民に恵まれ、安全で安心して豊かな生活を送ることができている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元のかかりつけ医が8月末に廃業したため、新しい医師との関係を深めるよう努力しているところ。他の県立病院との提携は続いており、病状にあわせて適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医が廃業されて新たな医師との関係を構築中である。ホームでできる事は協力して生きたいと考えている。	今後も医療との連携しながら、入居者の支援される事を望みます。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師資格者の職員が常に医療機関との連絡を密にし、適切な医療を受けられる環境にある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院についてもかかりつけ医を通し、安心して治療を受けられ早期に退院できるように情報交換を密にし、よい関係づくりに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで看取りの経験はないが、看取り指針の策定や職員間での協議等、終末期に向けた方針と対応は整っており、重度化した場合の方針を家族と話し合いを行いたいと考えている。	ホームでの看取りを実践する為に文章等整備されている。唯その場になると家族等迷いは当然と思う。病院への入院になる事が殆どである。	今後家族・医療との連携を図りつつ、いざという時の為に柔軟に対応する事が望まれる。尚その際には職員への「心のケア」への支援も望みます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医から、急変時の対応について指導を受けたり、看護師資格を持つ職員から常に指導されている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民との災害時における救援提携が整っており、非常時には1分以内に駆けつけることができる体制ができている。施設内はスプリンクラーを整備し、安全対策は万全である。	近隣との防災協定書を交わしている。住民からの救援体制も整っている。	近隣の方々との良好な関係性が、更に強固なものになる様望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	グループホームわたの家 次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	一人ひとりの人権を尊重し、その人らしい生活を支援すると共に、誇りやプライバシーを損なうことのない言葉がけや対応に努めている。	職員が入居者ひとり一人の人格を尊重する事を心掛け、外部研修など積極的に参加され、声なき声を聞き取る為の手法等学び実践している。	今後もひとり一人を尊重し、誇り・プライバシーを保護し取り組んで下さい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、本人の思いを聞いたり、したいことを聞いたりし、その中で本人がしたいことを選択ができる支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生き方や思い、ペースを優先し、その人らしい生活が送られるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものを本人が選んだり、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節折々の郷土料理が好評で、材料づくりから調理までその人ができることを分担し楽しむことができるよう支援している。また、片付けや台拭きなどもできる人が職員と一緒にやって行っている。	訪問時季節も穏やかで、外で名物のジンギスカンを頂いた。入居者は訪問者に気遣いされ盛んに進めてくれた。おにぎりを持って花見しながら、サンマを外で焼きながら、ゆべしを作りながら、季節毎に食事を楽しむよう配慮されていた。	嗜好調査をされているが、記録が残されていない。今後の参考にする為に残される事を望みます。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分量を把握し、栄養バランスを考慮し楽しい食事の時間になるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの支援を行っており、自分でできない人には職員が専用ブラシでケアを行っている		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄は穏やかに生活する為に重要と考え実践されている。一人ひとりの状態に合わせて、新聞紙など用意し対応している。	更に排泄を重要と考え今後実践されていく事を望みます。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に配慮し、野菜や繊維質の多い材料を用いた料理に心掛け、便秘予防に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	グループホームわたの家 次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ本人の希望に添った入浴に心掛け、入浴時間や入浴剤により楽しい入浴になるよう配慮している。	一人ひとりに合わせた対応がされている。入浴時間、入浴剤で工夫され、入浴拒否する方についても気長に浴槽に入る事だけでなく、シャワー浴にする等楽しめるように心掛けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣を大切に、そのときの状況に応じた休息や、気持ちよく睡眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、看護師資格を持つ管理者が十分な説明と服薬方法について十分に説明したうえで支援している。服薬後の症状等の確認も的確に実施している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のタタミや、食事の材料づくり、買い物や掃除など、やりがいを感じることができるよう支援し、またその人が好きなことをしたり、好きなものを食べられるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、知人を訪ねたり行きたいところへいつでも出掛けることができる支援を行っている。また、家族とのお花見、花火見学、地域の人達との敬老の日の演芸大会など、家族や地域の人々との交流を実施している。	買い物に近くのスーパへ行きながら散歩をする。入居者の希望を踏まえながら、市街までお連れするなど、一人ひとりの声を聞き外出支援を実践されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で好きなものを買ったり、お金の管理ができない人には、自分で気に入ったものの買い物支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、家族に電話することの支援や、お便りを書くことの支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を使った温もりや懐かしさが漂う住居で、共有部分はこの家にもあるような居心地のよい空間となっている。	木材をふんだんに使った建物で、温かさを感じた。畳の間もあり、昔使ったであろう人形。掛け軸など落ち着いた共有空間が整えられていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあったもの同士が過ごせる大広間、玄関先の休息場、また所々に置かれたイスやソファは一人きりの居場所になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	グループホームわたの家 次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に8畳間の和室を5室用意し、田舎暮らしに慣れたお年寄りがゆったりと過ごしやすくなっている。また、使い慣れた家具や好きなものを持ち込める十分な広さが確保されている。	畳の生活を留意された中により入居者の気持ちに沿った姿勢を感じた。居室は使い慣れた家具、仏壇も置かれて自分の心地良い場所を作り出していた。	居心地の良い雰囲気、今後も変わらない様期待します。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い慣れた家具を持ち込み、自分一人の居場所にすることができる。また全館段差がなく、床暖で安全で快適な生活を送ることができる。		